

事業コード	41030113	政策コード	05	政策名	協働社会の構築
事業名	あきた未来づくり交付金事業(美郷町分)	施策コード	03	施策名	行政と多様な主体との協働の推進
部局名	企画振興部	指標コード	01	施策目標(指標)名	県と市町村の協働の推進
課室名	地域活力創造課	班名	企画・地域振興班	(tel) 1237	担当課長名 湯元 巖
					担当者名 高橋 進

評価対象事業(計画)の内容 事業年度 平成25年度 ~ 平成27年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
 少子高齢化や人口減少等による地域コミュニティの低下、県南地域の広域的交流の促進、及び小中学校の統廃合による廃校の有効活用については、県と美郷町の共通課題となっており、この解決に向け、滞留・滞在交流施設の整備のほか、地域特有の自然や歴史文化資源、スポーツ環境を活用した事業の展開により、美郷町の活性化が図られるとともに、県南域の多様な交流が推進される。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)
 集客プログラムの実施等による滞在・滞留型交流の拡大、スポーツ交流人口の増大と競技力の向上
 (重点施策推進方針との関係) ○ 重点事業として要望 ● その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況
 ①ニーズを把握した対象
 受益者 一般県民 (時期: 年 月)
 ②ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に)
 ③ニーズの具体的内容

4. 目的達成のための方法
 ①事業の実施主体 美郷町
 ②事業の対象者・団体 直接の対象:美郷町→最終的な対象:町民及び美郷町を訪れる観光客やスポーツ団体等
 ③達成のための手段 滞在型交流人口の増大を図るため、廃校を活用した宿泊交流施設整備に対する支援

交流人口の拡大、歴史文化資料等の適正な保存、地域コミュニティ及び生涯スポーツの振興、雇用の拡大や起業支援、平泉との連携による誘客の促進

④比較した代替手段及び選択した手段の有効性
 宿泊交流施設として整備する周辺はスポーツ施設が多く立地する環境にあり、観光客の宿泊のほかスポーツ大会の開催やスポーツ合宿などの宿泊場所としても優れている。また、施設整備にあたり廃校をそのまま活用した場合は大規模な改修費が必要のため、校舎の一部で既に40年近く経過している部分を解体し、木造平屋建てにすることでコスト的にも有利な整備手法となっている。

◎把握していない場合の理由及び今後の方針

①理由	
②今後の方針	

5. 事業の全体計画及び財源 単位(千円)

順位	事業内訳	左の説明	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	全体(最終)計画
01	あきた未来づくり交付金(美郷町分)	交流人口を増大させるための集客プログラム実施の拠点施設として、廃校を活用した宿泊交流施設、歴史民俗資料展示施設及び屋内球技場施設整備の支援	30,000	85,000	85,000				200,000
財源内訳			30,000	85,000	85,000				200,000
国庫補助金									
県債									
その他			30,000	85,000	85,000				200,000
一般財源			0	0	0				0

6. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 27年度末までに「宿泊交流施設」「歴史民俗資料展示施設」「屋内球技場施設」の整備と、27～28年度に実施の集客プログラムによる交流人口の増大と地域の活性化。

指標名									指標の種類
指標式									○成果指標 ○業績指標
①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）									
指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度	
目標a									
実績b	②データ等の出典								
東北									
全国									
③把握する時期 ○当該年度中 月 ○翌年度 月 ○翌々年度 月									

指標名									指標の種類
指標式									○成果指標 ○業績指標
①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）									
指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度	
目標a									
実績b	②データ等の出典								
東北									
全国									
③把握する時期 ○当該年度中 月 ○翌年度 月 ○翌々年度 月									

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由
この事業はプロジェクトを推進するための基盤等を平成27年度までに整備するものであり、成果は事業終了後から発生するため、指標設定に適さない。

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)
プロジェクト実施による4つの成果指標「宿泊交流施設の宿泊者数」、「歴史民俗資料展示施設の利用者数」、「屋内球技施設の利用者数」、「主要観光地・施設の来客数」については、それぞれ平成28年の目標数値を設定しており、これに向けてプロジェクトを推進していくこととなる。

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
地域コミュニティの活力低下や廃校の活用等は県・町共通の課題であり、本事業及び今後のプロジェクト実施により、地域の活性化と県南地域の交流の推進が図られる。

住民ニーズに照らした事業の必要性
平成24年度末で廃校となる6校については、それぞれ住民のニーズに応じた施設として生まれ変わり、本事業で整備する宿泊交流施設が完成することにより、滞留・滞在人口の増大が図られる。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

県南地域の広域的交流の促進につながるのと同時に、岩手県平泉が世界遺産登録され、美郷町、横手市、平泉町との連携による県外からの観光客の入り込み客の増大が図られることから、県と町が協働で取り組むことでさらに効果を高めることが可能である。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

○重点事業 ○その他